

趣意行届候様精々可心掛

右之通、天保十四卯年申渡置處、近來は願出候もの少く、右は全町役人共、手重之取扱方ニ成行候儀と相聞え、御仁惠之御趣意を失ひ候ニ當り、以之外之事ニ候、殊ニ今度地震ニ而、困窮之町人共之内、住所ニ離候病人、杯も可有之ニ付、右類之者逗留療治相願候はゞ、諸事前條之手續ニ相心得、早々可申出、

右之通、町中名主支配限り、月行事持之場所は、組合之名主より、家主小前之者共迄も、不洩様可申通旨、被仰渡奉、畏候、爲後日仍而如件、

安政二卯年十二月十日

南方小口年番

箔屋町名主

延吉郎印

北方同

小網町名主

伊十郎印

〔天明撰要類集二十三〕天明八申年二月十九日、牧野備後守殿、本多彈正少弼殿江、專阿彌を以上ル、

但御側衆江、上候分、加納遠江守殿、小笠原若狭守殿江、封候而清嘉を以上、

天明六年より同未年迄

小石川養生所病人數之儀申上候書付

柳生主膳正

町奉行

天明六年十二月朔日より、同七未年十一月廿九日迄、養生所江、來候病人數、

一三百三人

内

百五拾五人

全快之者

三拾五人

難治ニ付相歸候者